



■日時

2014年6月6日(金) 9:30-11:30 セッション
11:30-12:30 懇親会(軽食付き)

■場所

イトーキ東京 イノベーションセンター
SYNQA 2階セミナールーム
(東京都中央区京橋3-7-1 相互館110タワー)
<http://www.synqa.jp/access/>



■参加者

TFNメンバー企業およびCSRコンパスメンバー企業

■テーマ

「気候変動への適応策」

IPCCの第5次評価報告書が順次発表され、気候変動問題はますます深刻化していることが明らかになっています。気候変動に関してはこれまで、「緩和策」(温室効果ガス排出削減)について様々な取り組みが行われていますが、被害を最小限に抑えるため、また新たなビジネス機会をとらえるためにも、今後は企業も気候変動への「適応策」に取り組む必要が生じています。

気候変動に関する最新の知見に関して、IPCC第5次評価報告書 第2作業部会(影響・適応・脆弱性)の統括執筆責任者として、報告書作成に携わられた国立環境研究所 環境都市システム研究室 室長の脇岡靖明氏をゲストにお迎えし、レクチャーをいただきます。特に企業としてのリスクおよび事業機会の観点も含めてお話しいただく予定です。

さらに、イースクエアからも企業の適応策について、先進事例を交えて情報をご提供し、Q&A、ディスカッションを行います。

■プログラム

- | | |
|---------------|--------------------------------|
| ① 9:30- 9:40 | 挨拶 |
| ② 9:40-10:30 | レクチャー(脇岡 靖明氏) |
| ③ 10:30-10:50 | 企業の取り組み先進事例等のご紹介
(イースクエアより) |
| ④ 10:50-11:30 | Q&A、ディスカッション、まとめ |
| ★ 11:30-12:30 | 懇親会 (軽食付き、脇岡氏も参加予定) |



■ 肱岡 靖明(ひじおか やすあき)氏

(独)国立環境研究所 社会環境システム研究センター 環境都市システム研究室室長



IPCC 第2作業部会 第5次評価報告書 第24章(アジア)のCoordinating Lead Author (CLA:統括執筆責任者/調整役代表執筆者)

現在, アジア太平洋統合評価モデル(AIM)開発グループの一員として, 気候の安定化レベルとその影響について統合評価モデルを用いた解析に取り組まれています。

開発したモデルは, 環境省環境研究総合推進費S-8「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究」などで活用されています。